

「教室をぬけだす生徒の指導」を通して思うこと

足利市立西中学校生徒指導主事 岡 田 保 久

1. 問題行動のあらまし

8時25分始業時刻等全く気にせず、瞑想トレーニングのおわる8時40分頃、悠々とやってくる。違反の服装、俗にいうツッパリスタイルで、時には土足であがりこむこともあり、注意しても素直になおさないときもある。

休み時間中、ふっとどこかえ消える時が毎日続く、タバコがやめられずどこかえ吸いに行くのである。便所であったり、屋上であったり、体育館の裏であったり、毎日変化する。

注意してもきかず逆に反発したりする時もあり、素直にきく時もある。時々器物を破損したりするが、証拠がないと自状しない。最初は教室に入るよう説得したが、教師の目を盗んで外に出てしまう。教室に入ってもノートはあまりとらない。

2 この問題をどう受けとめるか

(1) 上記のような問題には、次のような教育権に関する法規を知らねばならない。

① 教育基本法 第三条（教育の機会均等）

すべて国民は、ひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならないものであって、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって教育上差別されない。

② 学校教育法 第十一条

校長及び教員は、教育上必要があると認めたときは、監督庁の定めるところにより、学生、生徒及び児童に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

③ 学校教育法 第二章 第二十六条

市町村の教育委員会は、性行不良であって他の児童の教育に妨げがあると認める児童があるときは、その保護者に対して、児童の出席停止を命ずることができる。

(2) 教育課程実施にあたっては、校長の教育方針に従い、全職員が納得のいく話し合いによって、共通の姿勢で生徒指導にあたらねばならない。

(3) 学年・学級経営を基盤とする学校経営に全員が参画している姿勢をとり、常に学年内の問題として処理し解決すべきである。

3. 指導上の諸問題

(1) 非行生徒の授業放棄の源となっているのは、見栄であり、自己を認めさせたいと思うツッパリの心である。そして何とかして自分に注意を向けさせたいと願う心が、妨害、放棄となって現われ、自己満足に結びつくことが多い。

(2) 先輩からの申し送りも無視できない。又、自分ひとりではできないので仲間を作り、同一の行動にでることが多い。下級生までも同一の行動をとるように強制することもある。

- (3) 家庭生活にも問題がある。核家族によって子供のしつけは母親中心になり、母親中心の社会観、道徳観のしつけであり、進学等がこれにからみ、基本的生活習慣の育成はかえりみられない。あそびも金銭で買う時代でもあり、非行少年達は自己表現の機会がなく簡単な単語の続きしかしゃべれない、本気で子供の成長を認める家庭が大変に少ない。
- (4) 教師の一貫した姿勢が見られない。生徒はそこにつけこみ規律を乱す。従って一貫した生徒指導の信念をもたない教師や、やさしすぎる教師、気迫の乏しい教師の教室に非行発生の割合が多いよう思う。生徒の中にとび込む教師はあっても、心の中にとび込むことは困難である。

4. 指導、対策の要点

(1) 教師側の指導体制の確立と共通認識

指導体制はわかりやすく生徒にも伝達し、共通認識をはかることが必要である。しかし、教師によってとらえ方がまちまちであり、逃げの姿勢が見られるときは成功しない。

(2) 甘やかしの教育を排除する

教育の厳しさは、あらゆる場合において生活の心に浸透させねばならない。当然学校の生活は甘いものでない。学校生活の規律を守ることから出発することの大切さを身につけさせたい、教師も自己に厳しく生徒に範をたれるべきである。

(3) 父母の理解と協力

問題が複雑になると学校に一任する家庭が多いので、学校に対する理解と学校の方針を常日頃から家庭に連絡し話し合いを心かけておくことが大切である。

(4) 地区の非行防止対策連絡協議会との協力体制

常に具体的な方法で学校の実状を知らせるようにして、地域と一体となっての協力体制が必要であり、年3回の会合は必要である。

5. 具体的な方法と心構え

- (1) 学校は学習を通して人格を作る場所である。従って授業をわかりやすく工夫し、わかる授業、たのしい授業の展開に努力しなくてはならない、その為にはチャイムの会図ですぐ教室に行くこと、魅力ある授業を展開することは教師として是非ともやらねばならないことである。
- (2) 生徒の云い分のみを聞いて、教師の信条をまげる必要は全くない。間違った行動に出る生徒に対しては、身体でぶつかっていく氣のある教師の心が必要である。よくないことは、どんなことでも許してはいけない。生徒の立ち場を理解してやることは大切であるし、云い分をよく聞くことは大切であるが、信条はまげてはならない。
- (3) 父母と共に歩むのは教師としての大切な役目である。家庭訪問をいやがってはならないし、父母の相談相手になるだけの研修をつむ必要がある。父母との話し合いをいやがる教師であってはならない。

(4) 市内中学校区で結成されている「非行防止対策連絡協議会」（各地域では呼び方が異なる）に積極的に働きかける必要がある。現状を正しく伝え協力をあおぐ必要がある。

授業を怠けて外に出た場合、すぐ声をかけてくれる地域の人達の協力なくしては非行は減らない。話し合いに時間をおしんではならない。

(5) その他

本校における非行の崩れ方はひとつのタイプがある。そのタイプは多分各学校とも共通していると思うが、列記してみると次のような道を歩む（男女とも）

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| ① 遅刻が定着てくる | 初步でこの段階での強い指導が必要
担任の努力で更生できる。 |
| ② 仲間をつくり、集団で遅刻する | |
| ③ 土足のまま下駄箱まであがる | |
| ④ くつのカカトをつぶす | |
| ⑤ 体育が不得意 | |
| ⑥ 頭髪を気にする | |
| ⑦ 違反の服装をする（女子が早く乱れる） | 非行が進むがなんとかなる。 |
| ⑧ 机にいたずらをしたり、○○命と書いたりする | |
| ⑨ 成績がさがる、用具をもってこない | |
| ⑩ 親のいうことをきかない | 学校の指導困難である。裁判所等に指導を受けるようになる。 |
| ⑪ 忘れものがふえる | |
| ⑫ ガムをかんだり、タバコをもってくる | |
| ⑬ 便所に度々行く（タバコかシンナー） | |
| ⑭ 保健室によく行く | |
| ⑮ 器物をこわす、まじめな子をいじめる | |
| ⑯ 教師に暴力をふるう | |
| ⑰ 不純異性交遊に走るか、特定の異性をもつ | |
- 以上の非行に共通する点付
- ① 父母の仲がわるい ② 子供と話し合いがない ③ 過保護の家庭に多い
④ 悪いことをしたときだけ暴力を振るう父親 ⑤ 信仰心というか、先祖を大切にしない家庭
⑥ 進路について理解のない家庭 ⑦ 先生の悪口をいう家庭 ⑧ 教育に無関心な家庭等をあげることができそうである。

足利市立第三中学校
星野光行

家出生徒の指導事例

1. 問題の生徒

A子 中学3年生

2. 問題の概要

修学旅行も無事に終った。その2日後6月5日(土) 第2校時の理科の授業(教科の先生が2年のスポーツテストがあったため自習)のとき、授業の途中に医者(皮膚科)に行くと職員室にいた先生に言って早退した。しかし、授業が終ってから A子さんは必ず早退だと友達が数人で職員室にきて話していた。自習の時間に何かあったらしい。理科室には教科書、ノート、鉛筆入れなどは残されていた。多くの生徒は医者から当然学校にもどって来ると思っていた。

後で解ったが帰るとき上履まで家に持っていた。このときなにかの原因で、すでに本人は学校に行かない気持ちができていたのではないか。

(理科室での会話……何人かの友達と修学旅行の話しをしていたなかでA子さんはヨダレをたらして寝ていたとか、保健係の調査でまだ生理のないこと、それが修学旅行の2日前からはじまったこと、それを知った友達がおめでとうと祝福ともひやかしともとれる言葉を言っていた。)

(妹に話していたこと……姉ちゃんは、本当は終学旅行に行きたくないと話していたという。理由は友達とお風呂入るのがいやだ。それは体のことで(ペチャパイ)妹と争っていたという。本人は体のことに関してはかなり気にしていましたという。)

○月○日(日)

家族の話……日曜日はいつもとかわらず1日中家にいた。本人が前からほしがっていたジグソーパズルを父親が買ってきていたのでそれで遊んでいた。普通の子では何日もかかるのをやや完成してしまったという。家出するような状態ではなかったという。

○月○日(月)

家族の話……母親が朝起きてきた本人を見たら顔色が悪かったので今日1日学校を休んだほうがよいといって学校に欠席の電話をした。そして、母親は会社に出勤してしまった。(前に腕にできた発疹のことで日赤で診察したが異状なし。)

○月○日(火)

家族の話……今日も1日休んだ。しかし、母親は学校に欠席の連絡をしなかった。学校でも、まだよくならないのだろうと思い確認をしなかった。母親も会社から帰って本人が学校を休んでいたことを知ったという。本人は1日中家にいた。(ただ、ぼんやりしていたという。オフコー

スのレコードも聴いていたという。)

○月○日(水)

朝の短学活のとき欠席していた。母親からはなんの連絡もなかった。まだ、よくならないのかなと思って2校時に家庭訪問した。

家には母親がまだ会社に行かずにいた。事情を話すと、今日は学校にでかけたといった。「それでは遅刻で来たかもしれませんから、学校で調べて連絡します」と話すと、母親は会社の電話番号を教えてくれた。

学校で調べてみると本人は出席しておらず、すぐ母親の会社に電話した。母親はびっくりして家に帰ったら本人は自分の部屋にいた。母親が心配して本人に聞くと、○○皮膚科に行ったという。確かに呑薬の袋を持っていた。

母親は、すぐに学校に行くようにすすめたが、「時間の途中から教室に入るのは、はづかしい」と言ったので、4校時に間に合うように(11時40分)行きなさいといって、母親の方から先に家をでた。そして、会社から「今、学校にやりましたから来たら連絡して下さい。」と電話があった。

給食の時間のとき、A子が来ていないのに気づいた。しかし、母親が家にいると思って家庭に連絡をしなかった。(担任は病気の子を家において会社にでかけたとは思わなかった。まさか、A子がそんなことするとは考えてもみなかった。あのおとなしい優秀な生徒が……)

家庭でも心配したのは、午後8時過ぎてからであった。ときどき本屋などで(読書好き)よく立読みしてくるからである。母親が、妹からの話で、わたしが学校から帰ったときに姉の自転車はなかったこと、部屋にカバンがあったこと、当日は11時40分ごろから大雨があり軒下にだしてあったセキセイインコが雨にぬれていたこと、(今まで可愛がっていたのでこんなこと絶対ない。)何時ごろ、どこに、どうして、なぜ、まったく原因がつかめなかった。そこで、近くの本屋や公園や土手などを探したが手掛りがなかった。午後10時過ぎてしまったので、学級で比較的仲のよい友達の家に電話した。そこで、今日は登校しなかった事実をはじめて知った。

すぐに担任の家に電話したが担任は家にいなかったので帰ったら電話を下さるか、12時ごろまた電話しますと言って切った。今日、本人が学校に行かなかったこと、まだ、帰っていないことについて告げなかった。

午前0時ごろ担任がA子宅に電話して、本人が学校に行くといって登校せず、まだ帰宅していないことを知った。すぐに生徒指導主事と連絡をとりA子宅にいった。(0時40分ごろ)

家族は警察署に捜索願をだしに行っていた。そこで市内の駅、公園、神社、図書館、河原、友達宅など巡回したが手掛りはなかった。

午前2時ごろ再びA子宅に行き両親と逢い、いろいろと話し合ったが直接的な家出の原因はつかめなかった。

再度、友達宅に電話したり、行って話を聞いたが手掛けはつかめなかった。(○月○日(土)の理科室のできごとを話してくれた。口ケンカして家に帰ってしまったこと、今までにもあったことなど……)

朝、A子宅から帰る途中（4時30分）もう1度、主な所を巡回したが何の手掛りはなかった。

○月○日（木）

A子の家出の件につき市教委へ速報し、再度警察におねがいする。学校では、昼休みと放課後を利用して3年職員を中心に全職員に協力を求めて、足利市内の目ぼしい所を探したが何ら搜索の手掛りになるものはなかった。

そこで、先生方と親で手掛りになるものはないかとA子の部屋を調べた。その結果、日記帳（3冊）が見つかり、その内容から生命を危険（自殺）の恐れがあると判断し、校長に連絡し、父親と学年主任他2名で警察署に事情の説明を行った。

たまたま、午後9時30分ごろ、両毛駅前の公衆便所東側にA子の自転車が置いてあった。すぐ警察に連絡した。警察では広域搜索の必要性と自殺の危険性大なりとのことで、各方面に再度搜索の連絡をしてくれた。

その間に隣組の人達も心配して搜索に協力してくれた。この日もA子宅に午前1時30分ごろまでいたが、何ら情報はつかめなかった。

A子のメモから（原文のまま）

○月○日（水）

ピックリした。私がいなくなったら、ママはすごく心配してた。
お医者から かえったら、ママが急いでじむしょからきた。
なんだか信じられなかっただけどホントにうれしかった。ママは私の
ことを心配してくれたなんて なんか……涙がでちゃう
私が いなくなったら ママは せいせいいすると思ってた。
だけど ママ、こんどは、本当にいなくなるかも
ごめんね ママ、私、うちには いたいけど……
もう学校には、二度ともどりたくないの
学校なんかキレイ （文字を消したあと）べんきょうなんかもうイヤ
ママは、心配するだろーね…… どこいったんだろうって ……
本当に、私は 親不孝のうそつき……
本当に わるいと 思っています。あやまつてもあやまりきれないくらい
だけど 本当に 学校だけは もう いきたくない
パパ ママ ○○ちゃん ごめんね
心配かけて 私はダメな子
私のことは 忘れて みんなしあわせに ネ
※フランス 行きたかったな……

日記帳には・母親が私より妹だけを可愛がっていること。

- ・私なんか家にいないほうがこの家庭は幸せなんだ。
- ・私は、死ぬことなんか少しも恐くない。
- ・死ぬときは、山の雪の中で死にたい。（死にたい文章が多い）
- ・その他、大部分が母親に対するにくしみの日記が多い。
- ・父親に対しては、1つもなかった。

○月○日（金）

前日夜半より朝まで、何に1つ情報はもたらされなかった。職員室の朝の打合せのあと、3年の先生方と相談の結果、3年生全員を体育館に集合させて、校長よりA子の家出の件について、ありのままに話し協力を求めるとともに情報や搜索に必要な写真（修学旅行で撮影したもの）をもっている生徒は提出してもらいたいことを話した。

友達や親からの話から山に興味をもっていること、自転車が両毛駅にあったことから鉄道を利用して群馬方面か小山方面へ行ったのではないかと考え、家族旅行した場所、日光、尾瀬沼、赤城山などの駐在所や駅や旅館などに電話したり、実際に聞きこみなどをした。しかし、新しい情報は得られなかった。

A子がオフコースの大ファンであったため公演していた大阪の会場まで連絡した。キップも調べてもらったが、買ったものはいないとの連絡を受けた。

午前1時30分ごろ、警察署より搜索の手掛りを見つけるため担任が日記帳や雑記帳また本人の写真（10枚）をもって行った。

校長も午後3時ごろ市教委と警察署へ赴き、その後の経過の報告と今後の搜索のあり方について話し合った。

午後6時ごろ3年職員と今後どうするかを話し合っていた。7時30分ごろ同級生の女子生徒2名が塾の帰り、市役所近くの花屋の前でA子を見つけて、捕えたので至急来て下さいとの電話連絡があった。そこで、警察署や親に連絡した。しかも逃げられそうだと言うことで市教委にも連絡し応援をたのんだ。2人の生徒の気転が1人の命を救ったのである。A子は、自殺する気持があったという。

8時30分ごろ家にもどった。今後のことについて母親と（父親は尾瀬に行く途中）話し合って気持が落着くまで休ませることにした。

3. 本人の概要

ア. 性格

おとなしい性格であり、あまり友達とも話したがらない。（本当はすごく話し好き）職員室などにくるときも友達のあとについてくるぐらいである。なかなか自分の意見もはっきり言わない。しかし、生徒の中ではものすごくわがままな面があったという。

・母親と口論したときも自分の考えをはっきり述べず、結果的にそのことが日記帳などに記さ

れ自分の不満をはらしていた。日記の内容を見ても母親とケンカしたときは多く書かれている。

イ. 学業成績

学習態度は消極的であり、自分から進んで発表などしない。成績は優秀である。試験をやってよい成績をとるのでA子の存在を知った教科担任がほとんどである。

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技・家	英語
1年	5	5	5	5	5	5	3	5	5
2年	5	5	5	5	5	4	3	5	5

家庭では、フランス留学させるため手続をとっていたし、本人も行くことを希望し、フランス語の勉強も始めていた。しかし、義務教育だけは終了しなくては無理とのことで断念した。（本人はかなりショックだったらしい。）

ウ. 標準検査の結果

教研式 知能偏差値 …… 70

教研式 全国学力検査

国語 …… 75

数学 …… 74

エ. 健康状態

身長は（161cm）大きいがやせている。病気もカゼをひいた程度である。生理が他の生徒と比較しておそかった。（修学旅行の2日前）

1年から3年の修学旅行まで …… 欠席4日

4. 本人の生育歴

家庭は経済的にめぐまれている。長女であり妹とは4歳はなれている。本人が小学4年生まで家にいたが、その後は家政婦を雇って会社（母親の父が経営している）に勤めた。

父親は婿のためかおとなしくあまり子どもに対しては父親らしくなかった。（毎日の帰宅が10時か11時ごろ）

幼稚園のころよりおとなしい子であったという。また、世話のかからない子であったという。親たちが注意しなくともすべて自分でやれる子であった。中学校に入学してからも心配なかった。テレビは1週間で1～2回位（1～2時間）夜の食事のあとは自分の部屋に入ってしまう。親子の会話もありなかったという。夜も12時か1時までもおきているという。3時ごろまでのときもある。

それに対して妹は非常にのんびりやで学校でも忘れもののチャンピオンといわれている。そのため親たちも妹に目が向けられ姉が忘れた存在になってしまった。（母親に対する最大の抵抗）父親に対する抵抗はないというより父親の存在がなかつたらしい。

5. 家庭生活環境

家 族

父 (44歳) 会社役員

母 (39歳) 父の会社事務員

妹 (11歳) 小学5年生

生活環境

渡良瀬川の近くに位置した静かなところで生活している。母親の父が会社の経営（従業員60人）をしているためそこで働いている。婿のためか現在も家庭の実権は母親が握っている。経済的にはめぐまれている。

6. 友人関係

学級や部活の友達は何人かいるが、自分から進んで友達になるということはない。しかも、いろいろの相談（悩みなど）ができる友達は1人もいない。部活に入部したのも目的が選手になって活躍するということでなく、身長をのばすために入部、161cmになり3年になってから部活の欠席は多くなかった。1~2年のときはほとんど出席した。まじめなところが多くある。

7. 指導の経過

ア. 指導の着眼点

- ・本人の精神的緊張を柔らげる。
- ・自分のとった行動を、生活の中から静かに気づかせる。
- ・本人に希望を持たせる。（進路など）
- ・夫婦間の本人に対する意思の疎通をはかる。（特に大切）
- ・両親（特に母親）の本人との接し方について話し合う。
- ・今、両親は何を一番先になすべきかについて考えてみる。

イ. 経 過

- (1) △月△日(土) 前日に親と話したので本人とは話さず。
- (2) △月△日(月) 母親から東京の伯母のところに気分を変えるためにやる連絡があった。
少し心配であったが許可する。放課後に従妹に写真（修学旅行で写したもの）と手紙（元気で旅行してきなさい）と本（平常心）を渡す。
- (3) △月△日(火) 午後4:00で東京に出発する。本人が従妹を通して手紙を持ってくる。
(内容…写真のお礼のこと、迷惑かけてごめんなさい、伯母の仕事の関係で京都か北海道に行くこと)結局は北海道に△月△日までいた。このときも東京まで一人でやった。
- (4) △月△日(月) 両親と連絡をとり、校長と生徒指導主事とで午前9:00家庭訪問する。
これから先のことについて相談する。校長が母親の態度について話す。(約1時間)
- (5) △月△日(木) 母親から連絡あり。あす本人が帰ってくるから本人と話してみて下さいのこと。

本人が逢ってもよいと言ったら連絡を下さい。

- (6) △月△日（金） 本人が逢ってもよいとのことで4：00から5：30まで逢う。以外に元気だったので安心する。家出のことにはふれずに伯母さんのことと北海道のことだけ終る。
- (7) △月△日（月） 本人と面接する。中学校に入学して現在までの様子、バスケット部について、マンガについて、オフコースについて、妹についてなどいろいろ話す。声は小さい。笑いがでたので安心する。（4：00～6：00）途中で母親が帰ってきた。帰りに北海道のおみやげをわたされた。
- (8) △月△日（水） 早朝父親から電話あり。午後3：00に訪問する。本人がケーキとコーヒーをだす。にこにこしている。

最初、父親が本人と話し合ったことについて話す。本人が父親に話したことによると生徒には逢いたくない。今の学校に行きたくない。という。

このことについて本人と二人きりで話し合う。どうもはっきりしない。約30分位話す。時間がかかることは覚悟である。

もう一度両親が本人の希望について聞くことで結論はださないことにする。本人がお茶をいれてくる。三人でいろいろな話をする。今一番好きなのが将棋であること。父親が11時ごろ帰っても待っていてよろこんでやる。（とびあがってよろこぶ）

午前中は勉強している。本人はまだだれとも逢いたくないとのことである。今まで家から一步も外に出たことがない。母親と自動車で行くときも今まで前座席に乗ったが、その後は後の座席に乗って三中生が見えると伏せてしまう。

6：00ごろ母親が会社から帰ってきた。本人の気分をリラックスさせるため父親がぜひ食事をいっしょにしてという。食事のあと父親が自分の幼少時代から中学、高校・大学と生い立ちを話した。その中であまりにも本人が自分に似ているので恐しいと話していた。家族はじめて聞いたという。姉妹と興味深く聞いていた。

- (9) ×月×日（木） 母親から電話あり。どうも本人は真剣に転校を考えているという。そのことについて7月12日（月）に父親が学校に来て相談したいという。学校では親にあわてないで時間をかけて本人と話し合うことをすすめた。

- (10) ×月×日父親が来校。（4：30～5：30）

もし転校するようなことになった場合にはどうすればよいか。父親も転校が決して良い方法ではないことを強調していた。

- (11) ×月×日（金） 本人と話し合う。家にいることがつらくなったという。だが学校に行く気持ちにはなれない。転校できないかという。

転校は校長が決定するのだが本人が強い希望があるのなら直接校長に話せるかと言ったら今までだれとも逢いたくない本人が逢って話すという。

- (12) ×月×日（月） 校長と生徒指導主事で家庭訪問する。（4：00～5：00）最初に両親と話し合う。いろいろの問題があること。家族が転居できるかの問題。転校する場所の

問題。転校先で受け入れてくれるかの問題。本人がうまく適応できるかどうかの問題。などについて話し合う。

最後に校長が本人から希望を聞いたが、本人も転校の望んでいた。すでに転居手続をとってしまっていた。

(13) ×月×日（水） 校長と担任で手続の書類を持っていった。できれば一学期中に手続を済せることがよいと話した。

そして転校先の学校に電話する。相手の学校でもよい返事がなかった。両親とよく話し合った上で条件に合ったらということである。

(14) ×月×日（木） 両親で転校先の学校に行き話し合う。その結果はあわてないでもうしばらく話し合って決定したらどうか。転校先の校長から「できればどんな条件か知らないが、今通学している学校に行くのが一番ではないですか」と話されていた。

(15) ×月×日（月） 私立中学校から電話あり。本人を転校させたいけれどどうでしようか。どんな生徒か聞きたい。うちの学校では今まで三年生からは一度も転入を認めたことがないという。

(16) 同 日 家庭に連絡し母親と逢えた。その話の内容は父親は本人のためなら少し位の犠牲は覚悟して努力しよう。母親は今の家をでて妹まで犠牲にしたくない。両親でよく相談して結果を連絡してくれることになっている。

8. 指導の結果

- ・本人の緊張はある程度柔らげられた。
- ・本人が行動した三日間は依然として謎につつまれたままである。
- ・親に対して（特に母親）心の変容がなされないままである。
- ・親の本人に対する意思の疎通が現在のところはかれないと。
- ・本人に対しての進路の見通しが立っていない。

9. 今後の課題

- (1)本人の心の支えを何に求めてやったらよいか。
- (2)二度と過ちをくりかえさないためにどう指導したらよいか。
- (3)親の心の変容（見方、考え方）は可能なのだろうか。

以上の点について今後の指導を継続したい。

評

現在、生徒非行の増加がみられ、大きな社会問題として関係各方面、機関で取り上げられ、その対応策、防止対策が真剣に検討されています。しかしその要因は単純でなく、複雑に絡み合っており、これという「きめ手」はみつけにくいものです。

投稿された指導事例は、本市の生徒指導主事研修会において取り上げられた二つの実践事例であります。事例1は校内で起きた問題行動に対し教師がどう取り組んだらよいか、どのような教師の姿勢が必要か、そして実践を通して見られた問題行動の悪化する過程を具体的に示された貴重な実践資料であります。また、事例2はA子の指導を通し、学校と家庭の連携のあり方、問題行動の背景理解、学校対応の速さの必要性等、具体的に学校の取り組みが示されている実践事例であります。

児童生徒指導は、一人ひとりその子に応じた適切な指導が大切であり、その子の共感的な理解がその根底になければなりません。教育の本質を踏まえ、温かさと厳しさの両面をもった指導が強く望されます。